

2023年度「絵画材料論」期末レポート課題

広島市立大学 講師 菅亮平

[課題]

あなたの創作・表現における内容と方法の関係について記述してください。

[注意点]

- ・タイトルと本文を設定する。
- ・日本語で記述し、本文の字数は800字以内とする。(データでテキストを作成する)
- ・先行研究として、他の作家の作例を1点 / 1人以上をレポート内に取り上げる。
- ・所定の提出フォーム(Google Forms)から、8月10日(木)17時までに送信する。

[提出フォーム]

2023年「絵画材料論」期末レポート提出フォーム <https://forms.gle/kHQjEFWhDc962UgG9>

[課題説明]

本講座では、西洋美術史(特に絵画史)の文脈から、各種の絵画諸材料の成り立ちを踏まえ、絵画(作品)の構造的な在り方を多角的に論じてきました。その中でも、主に技術工学的観点と相対主義的観点に基づいて「表現における内容と方法の緊密な関係性(不可分性)」を主題としました。このような、文献や講義を通して知りうる、いわゆる「理論」は、いかに自身の創作に反映していけるか、すなわち「実践」に結実されることが重要です。

期末レポートでは、各自の専攻あるいは志向する創作・表現において、その内容と方法の関係について考えるところを記述してください。換言すれば、「あなたが選択する(興味のある)表現の材料や技術の特性とは何か?」そして「なぜあなたはそれを選択するのか?」という問いとして考えるといいでしょう。本講座では、絵画を中心的な話題としてきましたが、本レポートにおいては、話題を絵画に限定する必要はありません。映像や写真、立体をはじめ、各種の工芸的手法、デザイン・ワークにおける様々なツールなど、各自が通常の創作・研究領域において扱う表現メディアを取り上げてください。

また、自身の創作・表現についてのみ言及するのではなく、先行研究の観点を取り入れ、レポートの中で各自が取り上げる表現メディアが用いられた他の作家の作品について触れてください。例えば、絵画表現の中で「パステル」を選ぶのであれば、パステルを用いた作家の作品(ラ・トゥールやシャルダン、ドガなど)を参照する、といった具合です。

本レポートの作成を通じて、各自が選択する表現メディアとの関わり合い方を再考する機会とし、今後の創作・研究がより多角的な観点に基づいて発展されることを期待します。

[講師連絡先]

メールアドレス: kan-ryohei@hiroshima-cu.ac.jp

授業用ウェブサイト: <https://class.ryoheikan.com>